

四連快ニズズ

No 13

文部部四年生連
警視庁事務局
二八、七十六

再び強固な斗争意志を確立し本日文教授会団交に結集せよ

全学の学友諸君、就中巨館本館バリケード封鎖
スツレ斗つてゐる文学部の諸君、

専ら貴敵への更なる強固な意志結集による斗争
体制の再構築のもとに再度文就私専ム再南専求
文就授会大衆団交へ臨むべく本日10時本館前学
内総決起集会に総集するよう四連協は断える。

△文就私専再南専求に対する文就授会の回答▽

三〇名近く結集したマは対文学部部長大衆団交で
我々の三本の条件を団交の中で大衆的に確認
し、文就私専ム再南を文就授会に要求していった。
その三本とは、オーに就取に属する専ムに限るこ
と、オニに日時を限ること(週二日午前中)、オ三
に巨館バリケードは今までのままとすること、以
上である。我々の強い愛護により団交のあらずく
文就授会が向かれ、そこで文就授会は我々の要求を全
面的に認め文就私専ム再南の方向を決定した。翌
13日に文就授会は文事ム室と接渉し、15日文事務
室からの回答を得た。そして我々の条件と文事務
室の条件を考慮して文就授会が、これなら「文事
務の人によつてもらえる」という線できつめ決定
し、昨日約束の12時を一時間遅くオーバーして我
々に次のようす条件を回答してきた。

一、就私関係の事務には学務、庶務、会計の三つ
の係が必要である。そのため、三つの係員およ
び事務長に文学部事務室への出入の自由が必要で
ある。

二、就私希望学生のための窓口をあげる。

三、週二日は学生のための受付事務にあて、専
務員は毎日勤務することが必要である。

四、就私担当教官の関係事務処理のために、研究
室、事務室への出入の自由が必要である。

△文就授会の回答に対し更に斗争体制を強化し
対応してゆかざればならぬ

学生大衆、四連協総会で確認されてゐるやうに
四連協の基本的立場は斗争を主体的に担い発
展強化していくにあり、その真に立って斗争
の新しい環としてしげしげ生起する四年生の特殊
的問題を四年生自ら組織的に克服していくこ
とにあるのだ。自ら斗争を放棄し四連協へ何ら
指集せずして「本館封鎖を解いて就私専ムを行
ひたい」とか昨日の文就私輪流委員との話し合
ひの席上における一学友の「四連協は正式に認
められた機関ではないから制限はなし」という
野き発言は、まさに自らの斗争放棄を合理化し

まうとする以外の何もでもないのだ。

四連協としては、静風果の教員試験の締切が
17日に切迫してゐる事を考え、文就授会の提出
した4つの条件でもって昨日だけ暫定的に文
就私専ムを行うことを希望した。そして文就
授会と事務との接渉の結果可能となり4時近く
から就私事務が実施された。

まことにこのことは我々の斗争の一步後退だ
のだ。自ら斗争に主体的に参加し、自らの手
で築きあげたバリケードを破壊せしめて痛苦
を叫びを内にして自らの手ではずし強固の通
路を作つていた学友の前で勝利者の如く笑つ
ていた諸君、若しくはほんとうに勝利者守の
かゝあの通路は勝利への道なのか、

文就授会の回答は、我々の要求した条件とは大
きくかけ離れてゐる。それゆゑ四連協として
は、結論は全体的斗争方針との関係で、斗争
委員会で決定することにした。そのおとG4
04に約四〇名の四年生が結集して四連協と
しては、我々が出した条件に添へた形ではな
く文就私事務を再南させるという方向を確
定した。その場において最も基本的な視座(

斗争)を放棄した形での就私専再南を強く
批判した意見が多くの学友から出された。昨
日の斗争委員会において、四連協が就私関係
のクービズ機関になつてゐるといふ強い批
判が与され、マは文学部部長団交における我々
の提出した条件の上で立つて文就授会提出の条
件を徹底的に再検討し再度文学部教授会に臨
むことが決定された。その真から、昨日四連
協がとつた措置、即ち文就授会提出の条件を全
面的にのんで暫定的専再南を希望したこと
は強く弾劾された。

ここで我々は、再度現在のストライキ斗争の
全体的状況を主体的斗争的視座から分析し把
握する中で、就私専再南を打ちこつていかば
なければならない。

なにしろも現在、流政移転への突進の重大
な機としての「調査に計上決定」そのゆるゆ
きび最終的局面にきてゐる時点を、それを阻
止すべく強固な更なる意志結集と斗争体制の
再構築が急務とされてゐるのだ。
全ての学友諸君、斗争意志一致のもとに本日
の文就授会大衆団交に結集せよ!!